MONOBE TIMES

教　育　目　標
○心情豊かな人
○自ら学ぶ人
○勤労を尊ぶ人
○よく考えて行動する人
○国際社会に貢献する人

〒３２１－４５１１　栃木県真岡市高田１８３８
TEL　０２８５－７５－０００８
HP http://www.moka-tcg.ed.jp/monojhsc/
ホームページで学校の様子を紹介しています
ぜひご覧ください

真岡市立物部中学校
学校だより
令和２年度　第１０号
令和３年　　２月発行

校　長　室　か　ら

インクルーシブ教育の推進

校長

日差しも少しずつ暖かみを帯び始め、近づく春の足音が感じられる季節となりました。２月４日（木）の立志式は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、規模を縮小して実施しましたが、２年生が堂々と「誓いのことば」を宣言し、将来の夢や目標についての「志」を新たにしました。生徒一人一人の願いが実現できるよう、教職員一同全力で支援に当たって参りますので、今後とも、御支援、御協力のほど、よろしくお願いいたします。

次に、新型コロナウイルス感染症に関してですが、本県に出されていた緊急事態宣言は、新規感染者の減少等により２月８日（月）に解除されました。しかし、県の警戒度レベルは最高の「特定警戒」であり、引き続き感染防止に全力で取り組む必要があります。学校においても、油断することなく、生徒の健康・安全を最優先に考え、こまめな手洗いや手指の消毒、マスクの着用、３密の回避、ソーシャルディスタンスの確保、教室の換気等を徹底して参ります。

さて、インクルーシブ教育という言葉を聞いたことのある方も多いと思いますが、インクルーシブには、「包括的な」「包み込むような」という意味があります。このことから、「子供たち一人一人が多様であることを前提に、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組み」のことをインクルーシブ教育システムと呼んでいます。そこでは、障害のある者が一般的な教育制度から排除されないことや自己の生活する地域において初等中等教育の機会が与えられること、個人に必要な合理的配慮が提供されること等が必要とされています。

本校には、特別支援学級が２学級ありますが、在籍する生徒一人一人にとって学習や生活が最適になるように、教科書や時間割、指導方法などを工夫しています。それだけにとどまらず、通常学級との交流を可能な限り取り入れ、共に学ぶ機会を多くするなど、インクルーシブ教育を推進しています。特に、運動会や桜町祭などの学校行事は、障害の有無に関わらず生徒全員が一緒に活動し、多くの喜びや感動を共有することができる、貴重な成長の機会となっています。

新型コロナウイルス感染症の収束状況次第ではありますが、１年延期された東京オリンピック・パラリンピックが、通常どおりの開催となれば、８月に生徒全員で新国立競技場で行われるパラリンピックの陸上競技を見学する予定です。パラリンピックは、障害者を対象として行われている国際競技大会で、4年に１度、オリンピック終了後に、同じ会場を使用して開催されています。始まりは、1948年のオリンピック・ロンドン大会の開会式の日に、イギリスのストーク・マンデビル病院でリハビリ治療の一環として開催された、車いす患者によるアーチェリー大会だと言われています。1952年に国際大会となり、1960年のローマ大会からはオリンピック開催国で、1988年のソウル大会からはオリンピックの直後に同じ場所で開催されるようになりました。当初は障害者の治療・リハビリという側面が強かったパラリンピックですが、現在はアスリートによる競技スポーツへと発展しています。もうひとつの（Parallel）＋オリンピック（Olympic）という意味で、「パラリンピック」という公式名称も定められました。東京パラリンピックでは、22競技・539種目が21会場で実施され、史上最多4,400人の選手による白熱した戦いが、8月24日から12日間にわたり繰り広げられる予定です。

また、パラリンピック観戦以外にも、６月には車椅子バスケットボールの選手に本校に来ていただく予定です。これは、日本財団パラリンピックサポートセンターが実施している、「あすチャレ！School」によるものです。参加体験型の授業ということで、パラアスリートと共にパラスポーツを体験し、リアルな声を聴くことで、障害者への見方が変わることが期待できます。また、人間の強さやすごさを身をもって体験することで、多様性を認め合う気持ちが育まれると思います。

生徒たちが生きるこれからの時代は、グローバル化が今以上に進展することが予想されます。そこでは、多様性を尊重する態度や互いのよさを生かして協働する力を生かして、持続可能な社会づくりに向けた取組の推進が欠かせません。さらに、「男性も女性も、高齢者も若者も、障害のある人もない人も、互いの人権を尊重し合い、支え合って生き生きとした人生を送ることができる社会」、いわゆる共生社会の実現が求められています。共生社会の実現に向けて、本校では、今後もインクルーシブ教育の推進に力を入れて取り組んで参ります。

※　裏面に続きます

立志式　立派にやりきりました!!

2月４日(木)。立志式が挙行されました。コロナ対策も万全に、２年生とその保護者１名のみの参加で、厳粛さの中、実に素晴らしい態度で臨むことができました。

誓いのことば

一人一人が、自分の将来に思いを馳せての「誓いのことば」を堂堂と発表しました。

また、立志者合唱「時を越えて」(指揮:郷間さん、伴奏:相馬さん)は、普段以上に互いの距離を取ることで、より難しさが高まりましたが、練習の成果を思う存分発揮することができました。会場に響く歌声には、感動させられました。

校長先生の式辞や３年生のＴくんからの「励ましのことば」を聞く態度にも、成長の跡が垣間見えました。この「立志式」は、これからの自分の進路・生き方の指針となるものとなったと思います。

祝立志～おめでとうございます～

立志者合唱♪

表彰の記録（敬称略）

▼第72回書初中央展　　【特賞】Ｎ、Ｕ　(※次号にて作品の掲載を予定しています)

▼第74回栃木県理科研究中央展覧会並びに発表会　　【最優秀賞】「パスタの折れ方」Ｓ、Ｋ

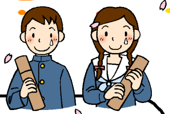
県の最優秀賞！　22年ぶりの快挙!!

年明け早々、実に素晴らしいニュースが飛び込んできました。Ｓさん、Ｋさんの二人が、栃木県の理科研究中央展覧会で、見事最高位の「最優秀賞」の栄誉を手にしました。研究テーマは「パスタの折れ方」。パスタの両端を持って折ると、２つではなく３つ以上に折れることに関心をもったことがきっかけ。

この受賞は、本校にとっては実に22年ぶりの快挙！　指導にあたったＳ教諭は、「身近なことに着目し、こつこつと実験を積み重ねた結果が実を結んだ」とコメント。二人の快挙に目を細めていました。

初めに受賞の報を電話で受け取ったＭ教頭は、うれしさで「ありがとうございました！」と受話器を手に一礼。市村校長は、渾身のガッツポーズで、それぞれ、喜びをかみしめました。周りの先生方も歓声を上げ、職員室が一気に沸き立ちました。コロナ禍にあって、今回の受賞は、大きな喜びであると同時に、小規模校でもしっかりと実績を残すことができるということの自信につながるものとなりました。改めて、二人の活躍を喜びたいと思います。

卒業式(３月１０日)



来月３月10日(水)。第７４回卒業式を迎えます。３８名の生徒が、この物部中学校を巣立っていきます。３年間の締めくくりの年は、コロナ禍にあって、思うような活動ができなかったことも否めません。しかし、生徒たちの明るく、素直で、前向きな気持ちでたくさんの思い出を作ることができました。後輩たちに誇れる先輩の姿を見せてくれました。教職員一同、感謝の気持ちでいっぱいです。立派な卒業式となることを期待しています。

年度末に向けて今一度コロナ対策を！

▼緊急事態宣言は解除され、新たなコロナ感染者も減少の傾向を見せている栃木県ですが、まだまだ安心はできません。▼中学校では、県立高校の受検を間近に控え、一層気が抜けない状況となっています。御家庭でも、ここで今一度、「新しい生活様式」の確認・徹底をお願いします。

- 手洗い・手指の消毒
- 換気
- 「３密」の回避
- 毎日の健康チェック
- 栄養・休養をしっかりと